

(11)特許出願公開番号

特開2001-82013

(P2001-82013A)

(43)公開日 平成13年3月27日(2001.3.27)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	ページコード ⁷ (参考)
E 0 5 B 65/00		E 0 5 B 65/00	G 3 E 0 3 6
B 6 5 D 85/57		B 6 5 D 85/57	Z
E 0 5 B 35/14		E 0 5 B 35/14	

審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全 8 頁)

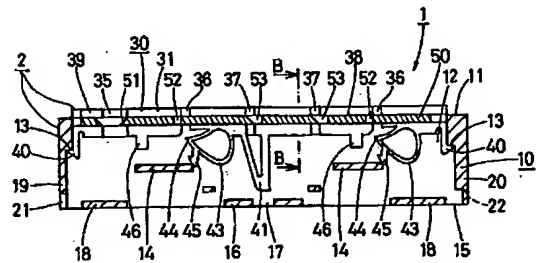
(21)出願番号	特願平11-257770	(71)出願人	592173434 株式会社日本ビデオセンター 名古屋市市中村区井深町1番1号
(22)出願日	平成11年9月10日(1999.9.10)	(72)発明者	近藤 忠美 名古屋市市中村区井深町1番1号 株式会社 日本ビデオセンター内
		(74)代理人	100090239 弁理士 三宅 始 Fターム(参考) 3E036 AA05 BA01 CA10 DA10 FA01 FB01

(54) 【発明の名称】 記録媒体を収納するケース、そのケースの防犯錠装置、防犯錠装置を備えた記録媒体を収納するケース及びそのケースを用いた展示方法

(57)【要約】

【課題】 簡単な構造で使い勝手のよいケースの防犯錠装置、その防犯錠装置を備えるケース及びそのケースをそのまま展示用ケースとして利用する展示方法を提供すること。

【解決手段】 ロック部材を錠ケースに押し込むと、錠ケースの内方の係止片上に弾接する爪片がその係止片の下部に移動して係合すると共に、錠ケースの係合孔にストッパー片が挿入されて施錠される。また、開錠状態とする場合には、錠の第1錠片をロック部材の特定の鍵穴に、第2錠片を他の鍵穴に合わせて挿入すると、先頭の第1錠片は摺動片を移動させて他の鍵穴と摺動片の透孔の位置とを合致させ、第2錠片が爪片のバネ弾力を付与する部分を押圧して係合状態を解除する。ついで錠を引き抜くと、ロック部材が持ち上がり、第2錠片は爪片の係合を解除させた状態で上方に移動し同錠片の先端部が爪片のバネ弾力を付与する部分から離れ、同時に爪片は再び係止片上に弾接されるように構成した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ほぼ直線上に配置された複数の鍵穴と該鍵穴に直交する溝を長手方向に設けたベースに、各鍵穴に対応する透孔が形成された摺動片を摺動可能に設けたロック部材と、長手方向の一側面に形成された開口部に該ロック部材を挿入して同ロック部材を所定ストロークだけ該開口部から出沒自在に設け、かつコンパクトディスク等の記録媒体をケース本体に収納し扉を開閉自在に設けた四角形のケースの扉の自由端側に沿って設けられる係合溝に、前記一側面と対向する他側面に形成された固定片を嵌着するように設けられた錠ケースとからなる錠本体を設け、前記ロック部材には該錠ケースに押し込まれたときに同ケースの内方に形成された係止片に係合するバネ弾力を有する爪片と、該錠ケースの前記固定片に形成された係合孔に挿入されるストッパー片とを一体に形成し、前記鍵穴の特定の鍵穴に挿入されるときに前記摺動片を移動させて他の鍵穴と前記透孔の位置を合致させると共に、引き抜かれるときに同摺動片を再び元の位置に移動させて他の鍵穴と前記透孔の位置を不一致とするように機能する第1鍵片と、他の鍵穴に挿入されて前記爪片の係合状態を解除する第2鍵片とを設けた錠を備えたことを特徴とする記録媒体を収納するケースの防犯錠装置。

【請求項2】 前記鍵穴の他に設けたダミー鍵穴に連通するダミー穴を前記摺動片に設けると共に、該摺動片を収めた溝に連通する窓孔を前記ロック部材に設け、不正な異物が該ダミー穴に挿入された場合に、摺動片が移動して前記窓孔に摺動片の一部を表すように構成したことを特徴とする請求項1に記載の記録媒体を収納するケースの防犯錠装置。

【請求項3】 コンパクトディスク等の記録媒体を収納するケース本体に扉を開閉自在に設け、該扉の自由端側に沿って係合溝が形成された四角形のケースと、ほぼ直線上に配置された複数の鍵穴と該鍵穴に直交する溝を長手方向に設けたベースに、各鍵穴に対応する透孔が形成された摺動片を摺動可能に設けたロック部材と、長手方向の一側面に形成された開口部に該ロック部材を挿入して同ロック部材を所定ストロークだけ該開口部から出沒自在に設け、前記一側面と対向する他側面に固定片を形成した錠ケースとからなる錠本体を設け、前記ロック部材には該錠ケースに押し込まれたときに同ケースの内方に形成された係止片に係合するバネ弾力を有する爪片と、該錠ケースの前記固定片に形成された係合孔に挿入されるストッパー片とを一体に形成し、前記鍵穴の特定の鍵穴に挿入されるときに前記摺動片を移動させて他の鍵穴と前記透孔の位置を合致させると共に、引き抜かれるときに同摺動片を再び元の位置に移動させて他の鍵穴と前記透孔の位置を不一致とするように機能する第1鍵片と、他の鍵穴に挿入されて前記爪片の係合状態を解除する第2鍵片とを設けた錠を備えた防犯錠装置とからな

り、前記四角形のケースの係合溝に前記錠ケースの固定片を嵌着し、前記ロック部材が前記錠ケースに押し込まれたときに、同部材のストッパー片の先端部を前記ケースの端面に形成された係止溝に係合させることにより、四角形のケースから錠ケースが外れないように構成したことを特徴とする防犯錠装置を備えた記録媒体を収納するケース。

【請求項4】 前記防犯錠装置が請求項2に記載の記録媒体を収納するケースの防犯錠装置であることを特徴とする請求項3に記載の防犯錠装置を備えた記録媒体を収納するケース。

【請求項5】 コンパクトディスク等の記録媒体を収納するケース本体に扉を開閉自在に設けた四角形のケースであって、該扉の自由端側に沿って形成された係合溝に、ストッパー片を備えたロック部材を錠ケースに出沒自在に設けて該ロック部材が押し込まれたときに該ストッパー片を錠ケースに形成された固定片の係合孔に挿入されるように構成された防犯錠装置の該固定片を嵌着し、前記ロック部材を前記錠ケースに押し込んだときに、前記ストッパー片の先端部を前記ケースの端面に形成された係止溝に係合させることにより、防犯錠装置の錠ケースが四角形のケースから外れないように構成したことを特徴とする記録媒体を収納するケース。

【請求項6】 防犯錠装置を備えた記録媒体を収納するケースによる展示方法であって、防犯錠装置の錠ケースの周面に展示内容若しくは利用者へのメッセージを表示して展示することを特徴とする防犯錠装置を備えた記録媒体を収納するケースを用いた展示方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、音楽や映像を記録したコンパクトディスク等の記録媒体を収納するケース、そのケースの防犯錠装置、防犯錠装置を備えた記録媒体を収納するケース及びそのケースの展示方法に関する。

【0002】

【従来の技術】音楽や映像を記録したコンパクトディスク(CD)、デジタルビデオディスク(DVD)等の円盤状記録媒体は、扉付のケースに収納された状態で販売されている。以下、この明細書において「記録媒体」とは、CD、DVD等の円盤状記録媒体を言う。そこで、レンタルショップにおいては、販売ケースから記録媒体を取り出してカウンター内の保管棚に収め、空の状態の販売ケースを棚に並べて陳列に供し、記録媒体を貸し出したときには、例えば「レンタル中」と記した札をゴムバンドで販売ケースに取り付けて再び陳列することが行われている。その他、販売ケースから取り出した記録媒体を別の展示兼用レンタルケースに入れ替えて陳列に供することも行われているが、この場合には、元の販売ケースは不要として廃棄されている。また、レンタル

ショップにおいては記録媒体が不正に持ち出されることを防止するため、錠を備えた防犯ケースに、記録媒体を収納した販売ケースを収納した状態で陳列し、不正に持ち出されたときには、センサーが防犯ケースに取り付けられた検知要素をショップの出口で探知し警報ブザーを鳴らせるという防犯システムが採用されている。かかる防犯ケースの例として、特開平9-290856号公報には、記録媒体を収納した販売ケースを出し入れする挿入口を前端面に有するケース本体の側部に、錠穴を備えたロック体を出没自在に設け、ロック体を押し込んだときにラッチがケース本体に係止すると共にロック片をその挿入口に突出させて内部の販売ケースを取り出せなくする構造が開示されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の製作・発売会社から出荷されたときの販売ケースから記録媒体を取り出して空の状態のケースを棚に並べて陳列に供する場合には、記録媒体が不正に持ち出されることは回避できるが、記録媒体を保管する保管棚を設置しなければならないと共に、記録媒体の管理が煩わしい。記録媒体を展示兼用レンタルケースに入れ替えて陳列に供する場合には、レンタルショップは新たにそのレンタルケースを購入しなければならない、元の販売ケースが無駄になりゴミとして廃棄処分をしなければならない。上記防犯ケースの場合には、錠穴に釘等を故意に挿入することにより簡単に開錠することができるため、内部の記録媒体が不正に持ち出される危険がある。そうでなくとも、レンタルショップにおいては多数の防犯ケースを購入しなければならないので、経費が大変かさむという不都合を生ずる。また、展示兼用レンタルケースに防犯錠装置を後付けすること、製作・発売会社から出荷されたときの販売ケースに防犯錠装置を後付けしてそのケースを展示用にそのまま利用することは行われていない。

【0004】この発明の目的は、簡単な構造で使い勝手のよいケースの防犯錠装置、その防犯錠装置を備えるケース及びそのケースをそのまま展示用ケースとして利用する展示方法を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するために請求項1に記載の記録媒体を収納するケースの防犯錠装置は、ほぼ直線上に配置された複数の錠穴と該錠穴に直交する溝を長手方向に設けたベースに、各錠穴に対応する透孔が形成された摺動片を摺動可能に設けたロック部材と、長手方向の一側面に形成された開口部に該ロック部材を挿入して同ロック部材を所定ストロークだけ該開口部から出没自在に設け、かつコンパクトディスク等の記録媒体をケース本体に収納し扉を開閉自在に設けた四角形のケースの扉の自由端側に沿って設けられる係合溝に、前記一側面と対向する他側面に形成された固定片を嵌着するように設けられた錠ケースとからなる錠本体

を設け、前記ロック部材には該錠ケースに押し込まれたときに同ケースの内方に形成された係止片に係合するバネ弾力を有する爪片と、該錠ケースの前記固定片に形成された係合孔に挿入されるストッパー片とを一体に形成し、前記錠穴の特定の錠穴に挿入されるときに前記摺動片を移動させて他の錠穴と前記透孔の位置を合致させると共に、引き抜かれるときに同摺動片を再び元の位置に移動させて他の錠穴と前記透孔の位置を不一致とするように機能する第1錠片と、他の錠穴に挿入されて前記爪片の係合状態を解除する第2錠片とを設けた錠を備えたことを特徴とする。

【0006】同様の目的を達成するために請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の記録媒体を収納するケースの防犯錠装置において、前記錠穴の他に設けたダミー錠穴に連通するダミー穴を前記摺動片に設けると共に、該摺動片を取めた溝に連通する窓孔を前記ロック部材に設け、不正な異物が該ダミー穴に挿入された場合に、摺動片が移動して前記窓孔に摺動片の一部を表すように構成したことを特徴とする。

【0007】同様の目的を達成するために請求項3に記載の防犯錠装置を備えた記録媒体を収納するケースは、コンパクトディスク等の記録媒体を収納するケース本体に扉を開閉自在に設け、該扉の自由端側に沿って係合溝が形成された四角形のケースと、ほぼ直線上に配置された複数の錠穴と該錠穴に直交する溝を長手方向に設けたベースに、各錠穴に対応する透孔が形成された摺動片を摺動可能に設けたロック部材と、長手方向の一側面に形成された開口部に該ロック部材を挿入して同ロック部材を所定ストロークだけ該開口部から出没自在に設け、前記一側面と対向する他側面に固定片を形成した錠ケースとからなる錠本体を設け、前記ロック部材には該錠ケースに押し込まれたときに同ケースの内方に形成された係止片に係合するバネ弾力を有する爪片と、該錠ケースの前記固定片に形成された係合孔に挿入されるストッパー片とを一体に形成し、前記錠穴の特定の錠穴に挿入されるときに前記摺動片を移動させて他の錠穴と前記透孔の位置を合致させると共に、引き抜かれるときに同摺動片を再び元の位置に移動させて他の錠穴と前記透孔の位置を不一致とするように機能する第1錠片と、他の錠穴に挿入されて前記爪片の係合状態を解除する第2錠片とを設けた錠を備えた防犯錠装置とからなり、前記四角形のケースの係合溝に前記錠ケースの固定片を嵌着し、前記ロック部材が前記錠ケースに押し込まれたときに、同部材のストッパー片の先端部を前記ケースの端面に形成された係止溝に係合させることにより、四角形のケースから錠ケースが外れないように構成したことを特徴とする。

【0008】同様の目的を達成するために請求項4に記載の発明は、請求項3に記載の防犯錠装置を備えた記録媒体を収納するケースにおいて、前記防犯錠装置が請求

項2に記載の記録媒体を収納するケースの防犯錠装置であることを特徴とするものである。

【0009】同様の目的を達成するために請求項5に記載の記録媒体を収納するケースは、コンパクトディスク等の記録媒体を収納するケース本体に扉を開閉自在に設けた四角形のケースであって、該扉の自由端側に沿って形成された係合溝に、ストッパー片を備えたロック部材を錠ケースに出没自在に設けて該ロック部材が押し込まれたときに該ストッパー片を錠ケースに形成された固定片の係合孔に挿入されるように構成された防犯錠装置の該固定片を嵌着し、前記ロック部材を前記錠ケースに押し込んだときに、前記ストッパー片の先端部を前記ケースの端面に形成された係合溝に係合させることにより、防犯錠装置の錠ケースが四角形のケースから外れないように構成したことを特徴とする。

【0010】同様の目的を達成するために請求項6に記載の防犯錠装置を備えた記録媒体を収納するケースを用いた展示方法は、防犯錠装置を備えた記録媒体を収納するケースによる展示方法であって、前記錠ケースの周面に展示内容若しくは利用者へのメッセージを表示して展

示することを特徴とする。

【0011】

【発明の作用及び効果】（請求項1の発明）ロック部材を錠ケースに押し込むと、錠ケースの内方に形成された係止片上に弾接する爪片が、その係止片の下部に移動して係合すると共に、錠ケースの固定片に形成された係合孔にストッパー片が挿入される（施錠状態）。また、開錠状態とする場合には、鍵の第1鍵片をロック部材の特定の鍵穴に、第2鍵片を他の鍵穴に合わせて挿入すると、先頭の第1鍵片は摺動片を移動させて他の鍵穴と該摺動片の透孔の位置とを合致させ、第2鍵片が爪片のバネ弾力を付与する部分を押圧して係合状態を解除する。ついで、鍵を引き抜くと、ロック部材が所定ストロークまで持ち上がり、第2鍵片は爪片の係合を解除させた状態で上方に移動し同鍵片の先端部が爪片のバネ弾力を付与する部分から離れ、同時に爪片は再び係止片上に弾接される。また、第1鍵片は、摺動片を再び元の位置に移動させて他の鍵穴と摺動片の透孔の位置を不一致とするように機能する。

【0012】この記録媒体を収納するケースの防犯錠装置は、コンパクトディスク等の記録媒体をケース本体に収納し扉を開閉自在とした四角形のケースに簡単に着脱することができ、施錠及び開錠操作をワンタッチで行うことができる。加えて、ロック部材のバネ弾力を付与させる爪片とストッパー片とが一体成形されているので、構造が簡素となり組み付けが容易となった。

【0013】（請求項2の発明）防犯錠装置のロック部材には、鍵穴の他に設けたダミー鍵穴に連通するダミー穴を摺動片に設けると共に、摺動片を収めた溝に連通する窓孔が設けられている。そこで、仮に不正な釘等の異

物がダミー鍵穴からダミー穴に挿入された場合には、開錠をすることができないと共に、摺動片が一方に移動してその一部が窓孔に表われる。

【0014】この記録媒体を収納するケースの防犯錠装置は、不正な開錠操作を行われたことを窓孔に表れた摺動片により確認することが可能であり、かかる行為の予防対策をするうえで有益である。

【0015】（請求項3の発明）記録媒体を収納した四角形のケースに防犯錠装置を取り付けるには、そのケースの係合溝に防犯錠装置の錠ケースの固定片を嵌着してから、ロック部材を押し込む。これにより、ロック部材のストッパー片の先端部がケースの端面に形成された係合溝に係合するため、四角形のケースから錠ケースが外れなくなり、ケースの扉を開くことができない。また、ケースの扉を開くには、上記した請求項1の発明の項で述べた開錠操作を行ってから、防犯錠装置をケースから外せばよい。

【0016】この防犯錠装置を備えた記録媒体を収納するケースは、現在の製作・発売会社から出荷されるときの販売ケースと、レンタルショップで用意される展示兼用レンタルケースによる二つのレンタル方式に適用することが可能であり、販売ケースに防犯錠装置を後付けすることによりそのまま展示用ケースとし、同様に展示兼用レンタルケースを防犯機能を備えた展示兼用レンタルケースとして利用することができるので、大変利便性がよい。

【0017】（請求項4の発明）この防犯錠装置を備えた記録媒体を収納するケースは、不正な開錠操作を行われたことを窓孔に表れた摺動片により確認することが可能である。なお、防犯錠装置の作用については、請求項2の発明の項で述べたことと同じであるため説明を省略する。

【0018】（請求項5の発明）この記録媒体を収納するケースは、現在の製作・発売会社から出荷されるときの販売ケースと、レンタルショップで用意される展示兼用レンタルケースによる二つのレンタル方式に適用することが可能であり、ここで特定される構造の防犯錠装置を後付けすることができる新たな形式のケースである。

【0019】（請求項6の発明）この防犯錠装置を備えた記録媒体を収納するケースを用いた展示方法は、防犯錠装置の錠ケースの周面に展示内容若しくはメッセージを表示することができるので、記録媒体の宣伝や差別化、管理の面で利便性がよい。

【0020】

【発明の実施の形態】以下に、本発明の実施の形態例を図面に基づいて説明する。図1は防犯錠装置の平面図、図2は図1のA-A線断面図、図3は図2のB-B線断面図、図4は摺動片の平面図、図5は鍵の正面図、図6はロック部材を押し込んだ状態を示す防犯錠装置の一部破断正面図、図7は不正な開錠操作を説明する防犯錠装

置の一部破断正面図、図8は記録媒体を収納する販売ケースの平面図、図9は図8のC-C線断面図、図10は図8のD-D線断面図、図11は防犯錠装置を販売ケースに取り付ける要領を示す説明図、図12は防犯錠装置を販売ケースに取り付けてロック部材を押し込んだ状態を示す説明図、図13は錠を錠本体に挿入して開錠する状態を示す説明図、図14は販売ケースに防犯錠装置を取り付けた状態を示す斜視図、図15は展示兼用レンタルケースに防犯錠装置を取り付けた状態を示す斜視図である。

【0021】図1～図5において、この防犯錠装置1は、錠ケース10とロック部材30とからなる錠本体2と、鍵55とから構成されている。箱形状の錠ケース10には、長手方向の一側面である上面11に形成された開口部12から少し内方位置に外方に延びる段部13、13を夫々形成し、内方のほぼ中間の高さで長手方向に間隔を置いて係止片14を2カ所形成する。錠ケース10の上面11に対向する他側面である底面15の中央と両端位置には固定片16、18を夫々形成し、中央の固定片16には係合孔17を形成する。21、22は錠ケース10の左右の側壁19、20の底面15側に夫々形成された切欠である。

【0022】ロック部材30は合成樹脂により一体成形されており、そのベース31の側縁32には、図1、図2に示すように、1つの特定の鍵穴35、2つの他の鍵穴36、2つのダミー鍵穴37をほぼ直線上に配置し、それらに直交する角形の溝38を長手方向に設ける。39はその特定の鍵穴35の左方で、溝38に連通するようにベース31に設けられた窓孔である。ベース31の両端下方には上向きのフック片40を夫々形成する。ベース31の下面中央にはほぼV字形のストッパー片41を形成し、該ストッパー片41の内空部を前記ダミー鍵穴37の位置にはば合致させるように設ける。また、そのストッパー片41の左右位置には、バネ弾力を付与するためのループ部43に突起44と爪片45を上下方向に形成し、その突起44を前記他の鍵穴36の直下方に配置するように設ける。46はベース31の下面に設けられた衝合突起である。

【0023】50は板状の摺動片であり、図4に示すように、この摺動片50には前記特定の鍵穴35、他の鍵穴36、ダミー鍵穴37に夫々対応する透孔51、52、53が形成されている。その中の透孔53はダミー穴とされている。図2、図3に示すように、その摺動片50は前記ベース31の溝38に遊嵌されて摺動可能に設けられている。

【0024】しかして、上記ロック部材30を錠ケース10の開口部12から挿入し、フック片40を段部13に係合させ、爪片45の下部に係止片14上に弾接させ、ストッパー片41の先端部41aに係合孔17の中心線上に位置するように設け、同ロック部材を所定スト

ロックだけ開口部12から出沒自在とした錠本体2が構成される。そのロック部材30は、図6に示すように、錠ケース10に押し込まれたときに、爪片45が係止片14の下面に係合すると共に、ストッパー片41の先端部41aが係合孔17に挿入されるように設けられている。また、そのときに前記衝合突起46が係止片14に当接することにより、ロック部材30の押込み深さが規制されるように設けられている。

【0025】55は上記錠本体2の鍵であって、この鍵55は前記特定の鍵穴35に挿入されるときに前記摺動片50を移動させて他の鍵穴36と透孔52の位置を合致させると共に、引き抜かれるときに同摺動片50を再び元の位置に移動させて他の鍵穴36と透孔52の位置を不一致とするように機能する第1鍵片56と、他の鍵穴36に挿入されてロック部材30の爪片45の係合状態を解除するピン状の第2鍵片60とが設けられている。以上により、記録媒体を収納するケースの防犯錠装置1が構成される。

【0026】図7に示すように、この防犯錠装置1においては、不正な釘n等をダミー鍵穴37に挿入して開錠操作を行おうとしても開錠をすることができない。しかも、この場合には、摺動片50が左方に移動してその一部を窓孔39に表わすため、不正な操作が行われたことを確認することが可能である。

【0027】図14は記録媒体を収納するケースの一例としての販売ケース80であって、従来の製作・発売会社から出荷されるときに公知の販売ケースを設計変更し、レンタルショップにて展示用ケースとして利用可能とするために、上記防犯錠装置1を後付けすることができるとして設けたものである。具体的には、記録媒体100を収納する四角形のケース本体81に扉82の一例82aをヒンジにより枢支して該扉82を開閉自在に設ける。図8～図10に示すように、その販売ケース80の扉82の自由端82b側は少し幅(厚さ)寸法を小さくし、端面83の中央位置に係止溝84を、その係止溝84の両側に切欠85、85を夫々形成する。それらの切欠85の間隔は、前記防犯錠装置1の錠ケース10の固定片16、18の間隔と同一寸法に設ける。86は販売ケース80の端面83に形成された凹部、87は扉82の自由端82bの内方に形成された突部であり、該扉82を閉じたときに凹部86に突部87が遊嵌して扉82を不用意に開かないように設けられている。89は販売ケース80の端面83の外端縁88に沿って夫々形成された係合溝である。

【0028】上記販売ケース80に防犯錠装置1を取り付ける場合には、図11、図12に示すように、錠ケース10の固定片16、18を販売ケース80の切欠85、85に合わせてから左方に移動させることにより、固定片16、18が係合溝89、89に夫々嵌着して錠ケース10が固定される。しかして、前記ロック部材3

0を錠ケース10に押し込んで施錠したときには、同ロック部材30のストッパー片41の先端部41aが販売ケース80の係止溝84に係合するので、錠ケース10は販売ケース80から外れなくなり、扉82を開けることが防止される。

【0029】防犯錠装置1を販売ケース80に取り付けることにより、そのまま展示用ケースに利用する様子を図14に示す。その錠ケース10の周面には、レンタルショップの店名、「レンタルOK」等の事項やメッセージ等を表示して展示することができる。記録媒体を貸し出すときには、販売ケース80から防犯錠装置1を外してから内部の記録媒体を取り出せばよい。なお、開錠操作については前記

【発明の作用及び効果】の請求項1の発明の項において述べたので、説明を省略する。

【0030】90は合成樹脂材料により一体成形された展示兼用レンタルケースであって、このレンタルケース90は、図15に示すように、記録媒体100を収納する四角形のケース本体91に、薄肉に形成された2カ所のヒンジ部(図示せず)を介して扉92を開閉自在に設け、その扉92の自由端92b側に上記防犯錠装置1を後付け可能に設けたものである。具体的には、そのレンタルケース90に、上述した販売ケース80の係止溝84、切欠85、係合溝89に相当する構成を設けるのであるが、内容が重複するのでその説明を省略する。この展示兼用レンタルケース90は、防犯機能を備えた展示兼用レンタルケースとして利用することができる。なお、錠ケース10の周面にメッセージ等を表示して展示することが可能であることについても、販売ケース80の場合と同様である。

【図面の簡単な説明】

【図1】防犯錠装置の平面図

【図2】図1のA-A線断面図

【図3】図2のB-B線断面図

【図4】摺動片の平面図

【図5】鍵の正面図

【図6】ロック部材を押し込んだ状態を示す防犯錠装置*

*の一部破断正面図

【図7】不正な開錠操作を説明する防犯錠装置の一部破断正面図

【図8】記録媒体を収納する販売ケースの平面図

【図9】図8のC-C線断面図

【図10】図8のD-D線断面図

【図11】防犯錠装置を販売ケースに取り付ける要領を示す説明図

【図12】防犯錠装置を販売ケースに取り付けてロック部材を押し込んだ状態を示す説明図

【図13】鍵を錠本体に挿入して開錠する状態を示す説明図

【図14】販売ケースに防犯錠装置を取り付けた状態を示す斜視図

【図15】展示兼用レンタルケースに防犯錠装置を取り付けた状態を示す斜視図

【符号の説明】

1→防犯錠装置 2→錠本体

10→錠ケース 11→上面(一側面) 12→開口部

14→係止片

15→底面(他側面) 17→係合孔 16、18→固定片

30→ロック部材 31→ベース 35→特定の鍵穴

36→他の鍵穴

37→ダミー鍵穴 38→溝 39→窓孔 41→ストッパー片

41a→先端部 45→爪片

50→摺動片 51~53→透孔 (53)→ダミー穴

55→鍵 56→第1鍵片 60→第2鍵片

80→販売ケース(ケース) 81→ケース本体 82→扉 82b→自由端

83→端面 84→係止溝 85→切欠 88→外端縁

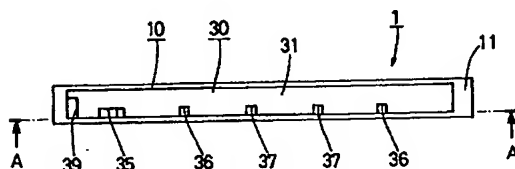
89→係合溝

90→展示兼用レンタルケース(ケース) 91→ケース本体 92→扉

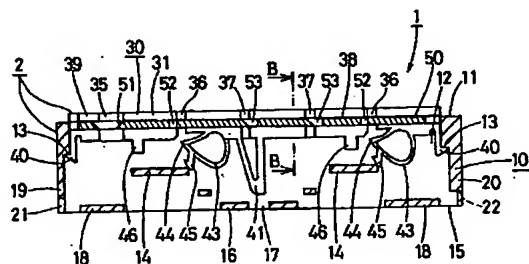
92b→自由端 98→外端縁

100→記録媒体

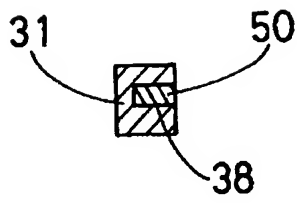
【図1】



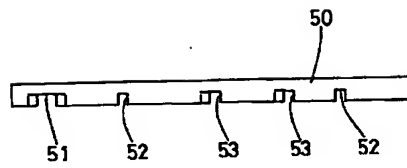
【図2】



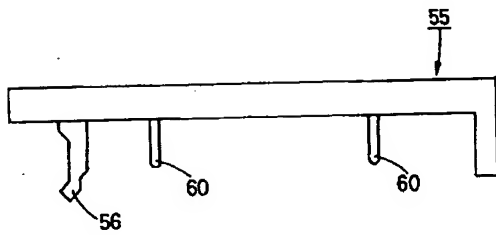
【図3】



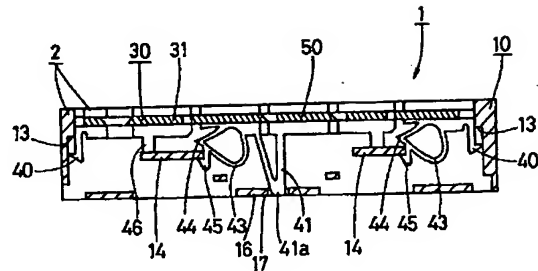
【図4】



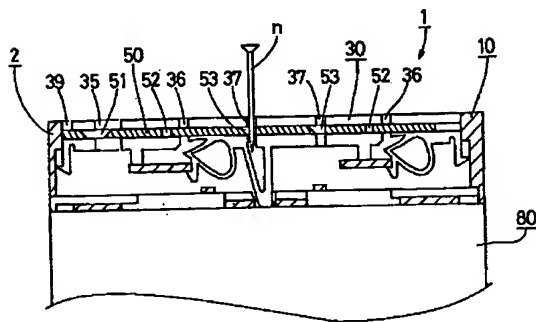
【図5】



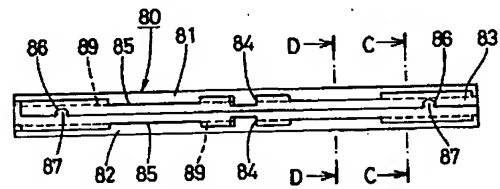
【図6】



【図7】

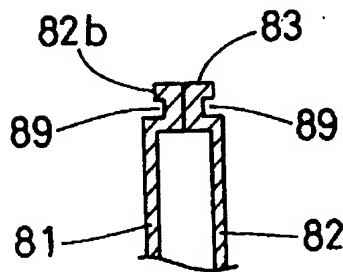


【図8】

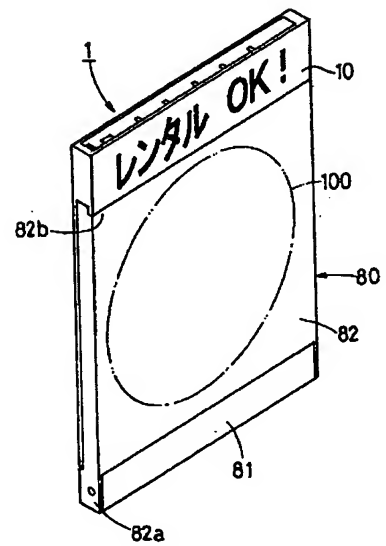
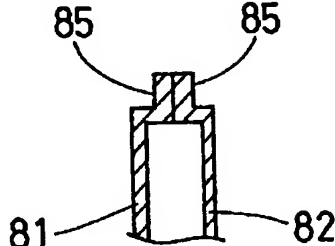


【図14】

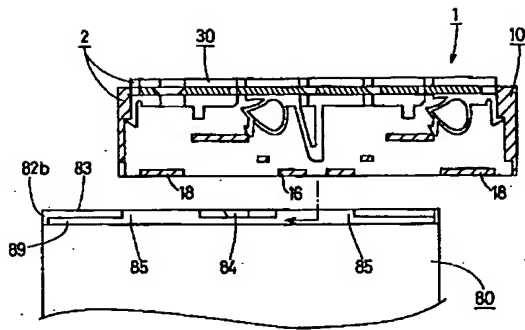
【図9】



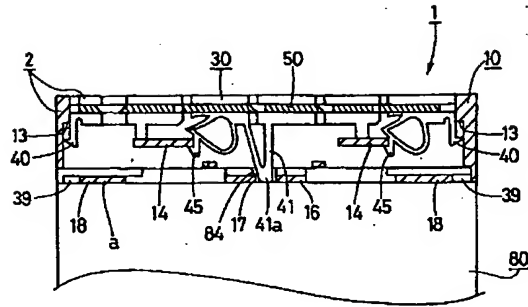
【図10】



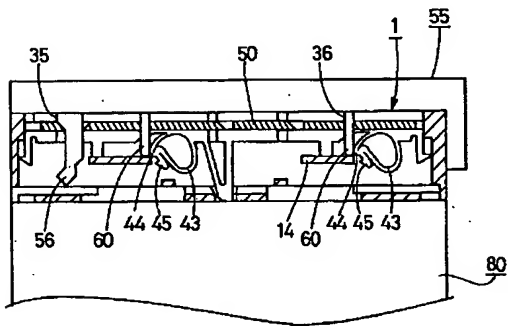
【図11】



【図12】



【図13】



【図15】

